

米国で町家の魅力を伝えたシンポジウム
(ニューヨークのジャパン・ソサエティ本部)



京町家保存 N.Y.で訴え

米国ニューヨークで五日夜(日本時間六日午前)、京町家の魅力を伝え、保存への支援を呼び掛けるシンポジウムが開かれた。京都の市民団体の代表や大学教授らが、現地のまちづくり団体や資金

京の市民団体や研究者

を援助する財団の関係者など約百人に町家の価値をアピールした。

京都の魅力を海外で直接発信し、資金を含む「幅広い支援」につなげるため、京都市が四〜七日までニューヨークとポストンで開催の一環。市景観まちづくり

資金支援を

センターとニューヨークに拠点を置く日米交流団体「ジャパン・ソサエティ」が共催した。

同センターの三村浩史理事長(京都大名誉教授)のあいさつのあと、NPO法人(特定非営利活動法人)京町家再生研究会の小島富佐江事務局長が自宅の町家改修の経過を説明し「家を『受け継ぐ』という感覚で住まいをしている」と町家への強い愛着を語った。

建築家の隈研吾さんは「奥行きのある構成で、パブリックとそうでない空間が格子でうまくつながれている」と構造の特徴を指摘し、

近代建築の巨匠と呼ばれるフランク・ロイド・ライトの設計した建物と町家との関係を紹介した。

また、現地では四日と五日に「米国の歴史的建造物保存運動」「歴史保存のための資金調達」をテーマにした会議も行われ、日本の建築の専門家や財団幹部が意見を交わした。

企画から携わり、シンポに参加した立命館大のリムボン教授は「活発な意見交換があり、町家への非常に強い関心を実感した。資金援助につながる手応えもつかんだ」と述べた。(沢田亮英)